

計画の進捗に対する意見一覧

No.	資料No.	ページ 番号	内 容	意 見
1	第4章 基本目標	1	里山の保全	1. (里山の数)ではなく、保全体制の確立が課題である。(1) 保全団体の弱体化(高齢化、担い手の不足、力量の不足) (2) 団体の自立的な活動を支援する。(機械の貸与、教育の実施) 2. みどりの学習を支援する体制の設備の整備が必要。
2	第4章 基本目標	2	多摩産材について	PRには小さい器から家具や椅子などの製作品の展示をして、器などはワークショップを行うなど、イベントをしてはどうか。戸建の家の展示もよいのではないかと。
3	第4章 基本目標	2	木材利用 (森林の循環)	1. 北野清掃工場の木質バイオの使用最大量は?(11, 370キロ) 必要量を供給しているのか? 2. 森林整備の意にも前定枝、材のチップ化促進と利用を進めるべき。 3. 老木の伐採、竹林の整備推進する施策が欠けていないか。
4	第4章 基本目標	2	3.目標 1-2森林の循環	数値目標が必要。0mや△tで表せないなら多摩産材を使用(6か所)のように使用した個所数で良いのでは。
5	第4章 基本目標	3	グリーマッチング制度	何か所ではなく、斜面緑地の総面積の何割に値するのか、新規指定の拡大を図りながら、緑地が荒廃しないように、この制度以外の方法も模索していくべきだ。
6	第4章 基本目標	5	I-5良好な水質成果目標	内容を読むと成果指標はBOD基準値の達成率ではなく、公共下水道接続率100パーセントではないのか。
7	第4章 基本目標	6	水源域保全 外来種	「アメリカザリガニ」が市内小学校の理科の教材として利用されていると聞いているが、不適切である。対応がしめされていない。
8	第4章 基本目標	6	I-6生物多様性成果目標	成果指標を「必要性を理解している市民の割合」というのはおかしい。何か指標となる生物の個体数をあげると良い。ホタルはいかが?
9	第4章 基本目標	7	今後の展開 について	1. 私もダンボールコンポストの講習会に参加し何年もやっているが家庭ごみがジャガイモの良い肥料になって美味しいジャガイモが採れる。 2. 児童の家庭から出る生ごみでダンボールコンポストを使い学校でたい肥化する校内活用モデル事業を西部の環境市民会議が式分方小学校で指導。コロナが落ち着いたらもう少しモデル校を増やして欲しい。
10	第4章 基本目標	7	II-1	取組実績の中で「ごみ排出量の少ない自治体ランキング」で3年連続全国1位をどこかでPRしたらよい。
11	第4章 基本目標	8	II-2 適正処理	「焼却灰の有効利用、不燃ごみの資源化」により埋立処分量がゼロになったと書いてあるが良くわからない。この「キモ」を説明してほしい。また2年度からゼロになっているが簡単なことなのか、努力の結果なのかを知りたい。
12	第4章 基本目標	9	施策の展開 について	照明器具の更新時にLED化を実施 *我が家でも昨年照明器具のLEDに取り換えをしている。今までは照明器具は該当しなかったが2022年7月から3千ポイント付与されるとのことで申請した。【家庭のゼロエミッション行動推進事業】【東京ゼロエポイント】という事業があることを知った。省エネ家電への買い替えについてCO ₂ の排出を減らし、地球温暖化防止にささやかだけども貢献できたと思った。都が推進している【HTT】電力を削減するT創るT貯めるも初めて知った。市民の皆にもこんなささやかなことでももっとPRしたらもっと浸透していくと痛感した。
13	第4章 基本目標	9	今後の展開 について	省エネ *市の施設のナイター設備がテレビで「本日は電力不足で、節電・省エネに協力を！」と報道されている中、ナイターを実施した。コロナも感染者数が多い中、日本中が電力不足に協力している中、良いのかと疑問に思った。利用者の気持ちもわかるがやはり今は控えた方がよいのではないかと。
14	第4章 基本目標	9	提案	オール八王子でCO ₂ 削減をすすめる上で事業所への対策を更に増やす(件数)事を検討することをすすめる。
15	第4章 基本目標	10	木質ペレット ストーブ	緑地で伐採された樹木はほとんどが活用されないで放置される。それらの活用方法としてペレット化する機械の導入。ストーブの価格が手ごろになればよい
16	第4章 基本目標	10	再生可能エネルギー	1. 市施設のみならずと施設(都営住宅など)への太陽光発電設備の導入、電灯のLDE化を働きかける必要がある。 2. 啓発にとどまらず木質バイオマスを積極的に提供する施策を導入。
17	第4章 基本目標	11	太陽光発電 設備	最初に設置してから、耐久年数となった設備はどのような処理をしてごみとなるか疑問である。
18	第4章 基本目標	11	II-5 低酸素	取組の柱を含め何を目標に活動しているのかわからない。もう一つブレークダウンすることで目標を共有すること。指標も「着手している箇所数」でない数字をあげること。
19	第4章 基本目標	11	低酸素型まちづくりの 推進	成果指標が「まちづくりに着手している箇所数」で最終目標4か所に対して実績0となっているのに、評価が「おおむね順調」となっている。分かりやすく説明していただく方がよいと思います。
20	第4章 基本目標	12	施策の展開 について	私が今、一番取り組んでいる環境教育・環境学習の推進である。 1. 教育課程に位置づけ、学校の特色を生かした環境教育の取り組みの実践。特に多くの教員への研修会をぜひ継続して欲しい。 2. 小学校の給食の残菜量の減少、タブレットや、副読本の利用等ぜひ継続実践して欲しい。 3. 八王子の豊かな自然に触れる観察会も継続して欲しい。私も八王子・日野カワセミ会観察会や、カワセミ会ジュニアクラブの活動は【全国こどもエコクラブ】に活動を報告している。エコひろばの川の学習サポーター、高尾山ボランティアガイドをして「高尾山の良さや、高尾山各コースや片倉城跡・滝山城跡などのハイキングツアーに関わっている。八王子のみどりの多面的な機能の活用を微力ながら進めている。
21	第4章 基本目標	12	今後の展開 について	1. 川の学習サポーターで、昨年度に引き続き養成講座で「川原の植物」の講師を務めた。今年も受講者が少なく4名でびっくりした。もう少しPR活動して受講者を増やす努力をしないと、高齢化している支援者で今後が心配。エコひろばの方も市民会議などにもっと訴え、受講したら市民会議にできるところから参加してもらうよう働きかけると良い。酷暑の中熱中症指数が高い中、7月の川の学習支援は大変だった。 2. みどりの学習も、今年は初めてで大変だが、第四中学の「高尾山」の取り組み、環境フェスティバルの出展の取り組みなど大変すばらしく今後も応援したい。
22	第4章 基本目標	12	環境教育、 環境学習の 推進	小学生教育支援(川の学習)について支援者が足りていない。支援者は高齢化が進み、養成講座を行っているが、補充は厳しい。川の学習は環境教育の重要な位置付けとなっており、一時的に支援校を減らしても、対策が必要である。

計画の進捗に対する意見一覧

23	第4章 基本目標	12	環境学習支援	環境教育支援校を増やすのは理想である、現実には支援校の数に対して支援者が足りない。養成講座応募者も減少済み。各学校が地元人材から支援者を募ることも必要だ。
24	第4章 基本目標	12	人材の育成、活用	1. 養成講座の内容の再検討⇒学習支援の内容、質にかかわる問題。 2. 新規に保全活動団体のメンバーに加わる人材の養成であるべき。 3. みどりの学習支援の内容、体制の整備が不可欠。
25	第4章 基本目標	14	喫煙について	おおむね順調とのことだが、八王子駅北口集いの飲食店近辺では勧誘する人、店を利用する人の多くが店舗前路上で喫煙、ポイ捨てして居る状況である。東町や旭町、三崎町、中町の住人は毎朝、掃除をしている。健康増進法や受動喫煙防止法が発揮されるには、もっと踏みこんだ条例などが必要ではないか。パトロールでは効果がはっきりしない。(厳しい条例が必要)
26	第4章 基本目標	15	成果指標について	光化学オキシダント0.06PPm以下の日数。目標が285日であり、2年、3年の実績より悪くなっている。目標は良くなる数字に変更すべきだし、なぜ悪くなっているのか分析がなされていないことを改善するようにすべき。
27	第4章 基本目標			*環境保全活動、取り組む人材育成は「やや遅れている」との評価である *管理者は東京都であろうが、市の観光資源として最大限活用している「高尾山」の過剰利用による悪影響についての言及がないのは大いに問題がある。
28	第4章 基本目標			現状、市が作成可能な計画としては良くできていると評価する。 この計画を進めるためには、市民、事業者が不可欠だが残念ながら市民、事業者がそれほど盛り上がっているとは思えない。この計画の周知を積極的に進める必要があるのは良いが、ごみの有料化の時、数十回に及ぶ説明会を開いたような行動が必要と思う。
29	第5章 協働プロジェクト	1	提案	緑地保全地区の活動につき参加者向けのテキスト等の作成をし活動が計画的に出来るようにすると良い。(作成にあたりプロの協力も検討要)
30	第5章 協働プロジェクト	3		このプロジェクトの目標は「はちおうじ省エネ国の会員数の増加」について、省エネ国は紙の表の入力かパソコンによるエクセル表の入力になる。 しかし、入力するのにパソコンよりスマホの方が若い市民に受け入れやすいのは、容易に察しがつく。省エネ国の表の入力ができるスマホアプリを開発し、パソコンと併用すれば、省エネ国への入会の敷居が下がると思われる。京都府と昭島市では実際に運用している。 今後、温暖化防止の為にCO ₂ 削減には、市民の行動変容の為に、エネルギーの見える化は絶対必要だ。クールセンターや推進員と協働で進めてみてはどうか。
31	第5章 協働プロジェクト	3	提案	市民以外の小企業への省エネの広報も取り入れると良い。
32	第5章 協働プロジェクト	3	はちエコポイント見直し	家庭の省エネ講座に参加ではちエコポイント加点になる。ポイントが目的での受講者が目立つ。見直しに賛成。
33	第5章 協働プロジェクト	5	公園アドプト	私たちの団体で手入れをしている「明神町なかよし公園」の花壇をアドプト制度利用の手続きをした。提出書類が面倒と町会での意識があった話を聞くとそうでもなさそう。認識で躊躇している点がある。
34	第5章 協働プロジェクト		プロジェクト	1. アドプト制度への企業の参加を強力に推進する。(社員研修プログラム化) 2. 「宮嶽池」事業の推進、担い手の確保が必要。 3. 活動の担い手としての施設団体への支援拡充が必要。
35	第6章 地域の行動	1	省エネ教室	町会、自治会と連携することにより、運動がひろがる。素晴らしい。
36	第6章 地域の行動	4	大沢川、城山川のクリーン活動	町会、治収会と連携することにより、運動が広がる。素晴らしい。
37	第6章 地域の行動	5	高尾山の環境保全	行政と意見交換、素晴らしい。活動の実効性が上がる。
38	第6章 地域の行動	8	ウェブサイト	ウェブサイトの充実が素晴らしい。環境問題を認識する人が増える。
39	第6章 地域の行動		地域の行動各地区活動実績	多くの地区で生物調査がなされていると報告されている。 差し支えなければデータ集などで結果を公表していただきたい。